

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木		
所在地	佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成29年11月24日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『まごころ』のもとに、スタッフ一同、本当の家族のように愛情を込めて、明るく楽しい雰囲気の中、入居者様のお手伝いをさせていただいています。地域の行事には積極的に参加し、また、隣接の小規模多機能ホーム、認知症デイサービスと共にサクラ白木として合同で行事を行い、地域との交流を図っています。庭に畑を作り自家菜園を行って、種まきから収穫までみんなで楽しんでいます。『自分の親を入居させてもいいなあ』と思える施設づくりを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設4年目となり、ますます地域と繋がりが深くなっており、利用者と職員が自治会の夏祭り、地域の餅つき、演芸会に参加している。また、事業所の消防訓練に地域の婦人部や自治会長が参加し、避難時に地域住民の協力を得ており地域との繋がりが確認できる。理念のまごころを具現化した心得は、『まごころのこもったお手伝いを、本当の家族のように、愛情をこめ笑顔の絶えない、楽しく温かい支援』であり、職員は日々実践している。職員は、利用者が日々快適に過ごせるよう数種のパッドの検討や見守りを強化することで、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。事業所は、今期、環境美化に取り組んでおり、利用者が清潔で心地よく過ごせるよう整備している。全職員が理念の沿って、利用者さまにまごころを込めた支援を目指している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りの終わりに、理念の唱和を毎日行っている。ミーティング等で共有し実践している。	事業所開設にあたり管理者は、同業の事業所見学や実習において、まごころという言葉に感銘を受け理念に掲げている。職員は理念を具現化し、心得として提示しており、愛情をこめ笑顔が絶えない支援を目指している。理念と心得は、日々申し送り時に唱和し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の夏祭りなどの行事に、利用者、スタッフ共に参加。地域清掃等の活動にはスタッフが参加している。事業所主催の行事にも地域の方に参加して頂き、交流を図っている。	自治会の依頼で公民館祭りに利用者の作品を出品したり、地域の餅つきや夏祭り、演芸会に利用者と職員が参加している。更に地域清掃への職員参加や野菜の差入れがある。併設事業所と合同の消防訓練には自治会長、婦人部、住民の参加があり、地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事や事業所の行事などにお互いが参加し交流することで認知症の方と接していただく機会を届け、地域へ発信し、理解と支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、隣接の小規模多機能ホームと合同で開催し、報告、情報交換など行い、サービスの向上に努めている。	併設事業所合同の会議は、規程の開催であるが、構成委員の家族や地域代表の参加回数が少ない。内容は、事業所より行事報告、苦情、事故発生の現状報告や参加委員との質疑応答を行っている。質疑応答の記録あるが、意見や要望等の経過報告や結果等の記録は、確認できない。	会議は、事業所の取り組み状況や利用者の様子を報告し、又、質疑応答の内容は、事業所の運営に活かせるため家族や地域代表の参加回数を増やす工夫が望まれる。又質疑応答の記録が次に繋がるよう記録の精査を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加して頂き、実情を伝え意見を頂き、また、他科受診が必要な事故に関しては、報告書を市に提出している。	管理者は、介護認定申請時や、遠方の利用者家族の書類関係の手続きの代行で市の窓口に出向いている。市からの情報は、主にファックスメールで届き、必要事項は記録しており、質問や相談は、直接電話している。研修案内により職員が交替で受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状況を観察し見守りで事故防止に努めている。同系列の小規模と合同で勉強会を行っている。	併設事業所合同で身体拘束の勉強会を年1回開催している。事業所から2名の職員が身体拘束の資料を集め参加している。勉強会の内容は、申し送り時に職員間で共有している。言葉の拘束については、日々の支援の中で意識しており、気づいた時には、互いに注意しあえる関係である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活で、スタッフ間で言葉がけやケアの方法について話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて制度の活用を支援している。現在、包括支援センターと協力し、成年後見制度を導入にあたった事例もある。後見人と協力して支援行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明と、本人・家族の意向などを伺い、理解の上で契約行っている。改定などの際には、文書等でお知らせし、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事等で来所された際に、家族様のご意見を伺っている。今年度に初めて、家族様にアンケートを送付し、ご家族様に、ご意見頂き、アンケート集計後、フロア会議にて報告を行った。	契約時に苦情受付窓口を含む苦情処理の流れを説明している。職員は家族の訪問時に話し、利用者の近況等を伝え、希望を聴取している。これまでに歯科医治療について疑問の声があり、歯科医を変更した例がある。事業所では家族に向けてアンケートを行うなど、意見の収集から質の向上に反映させる仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を開いて意見や要望等を聞き取り、話し合っており、業務や勤務体制の見直しなど行っている。適宜、管理者に報告相談行っている。	環境美化委員がトイレや居室、階段等の清掃のチェックシートを作成し、事業所全体で環境美化に取り組んでいる。また、利用者への声掛けや接遇、パッドの種類の検討など、フロア会議では、職員の意見やアイデアをもとに、支援の質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準につながっているが、やりがいなど個々の向上心をもって頂けるようにするには現状はあまり出来ていないため職場環境・条件の整備が必要だと感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接の事業所と合同で毎月勉強会を行い、また経験や技量に応じて外部研修に参加してスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の事業所との合同の毎月の勉強会や、合同行事など行い交流を図っている。市の連絡協議会に加盟して研修会等に参加している。また、他の法人の運営推進会議へ参加したり、介護実務者研修の学校と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談などで不安なことや要望等を聞き取り、情報をスタッフで共有して、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちや要望等を聞き取り、いつでも相談していただけるよう信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、スタッフ、その他関係機関と相談して支援内容を検討し、必要に応じて他のサービスとの連絡・調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳や食器拭き、洗濯などの家事を一緒に行っている。また裁縫など得意分野を活かした作業をお願いしたり、新聞折を手伝って頂いたりなど、共に支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を伝え、意向や要望を伺うようにしている。行事に参加して頂いたり、一緒に外出してもらうなど共に協力して支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの馴染みの美容院に出かけたり、食事や買い物に出かけたりと馴染みの関係が継続できるように努めてこようとしていたが、人員不足の為、現状で来ていない。	利用契約前の情報を基に、買い物や自宅への帰宅、墓参りなど本人の希望を少しずつ聞き取っている。家族に相談しながら自宅へ帰宅したり、買い物や郵便局に出掛けている。クリスマスには化粧して楽しい時間を過ごしている。月に一度、遠方から子どもが訪問し、一緒に教会に行く利用者もいる他、家族以外に昔の同僚等の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトランプをしたり、歌を歌ったりと交流を図り、閉じこもりがちの方にはスタッフが訪室して話をしたり、スタッフが調整役になって関係を支えるように努めている。スタッフも共に行動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も面会に行ったり、家族や関係先からの相談など伺い、退去後のフォローに努めている。入院後のお見舞いや、お亡くなりになられた後のお参りなども職員が行っている事例がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や言動から思いや意向を汲み取る努力をしている。また家族からも協力いただき、情報を共有して支援行っている。	職員は利用者本人が理解できるよう伝える方法を工夫している。介助拒否については、本人の意向を検討し対応している。難聴者にはジェスチャーや口の動きを読み、目を合わせてコミュニケーションを図っている。写経する利用者の必要な道具を家族に連絡し、一緒に買い物に出掛ける機会を作るなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族などから以前の暮らしぶりや生活歴などを伺い、スタッフ間で共有し把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や言動、体調など記録し、毎日申し送りをを行い、一人一人の現状をスタッフ間で共有し把握できるようにしている。特変時は、スタッフ間でミーティングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが中心となり、アセスメント・モニタリングを行い、本人、家族などの意向を元に定期的に会議を開き、スタッフ間でケアの内容を検討してケアプランを作成している。	担当制で、支援目標は、本人、家族の意向を聞き全職員が会議で支援内容を検討し、ケアマネジャーが作成している。職員は、支援内容を日々確認している。気づきは、書きとめ、申し送り時のプチ会議やケア会議で支援内容の評価、継続、見直しを検討し、現状に即した支援を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人カルテに記録し、また重要な事柄は、伝達帳又は、カルテに色を変え記載しスタッフ間で共有できるようにしている。履行表を作成しプランの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の支援の中で気づきがあれば、その都度スタッフ間で共有、検討してその時々に必要な支援を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、事業所がそれぞれの行事などお互いに参加して親睦を深め、協力できる関係作りに努めている。全職員が地域資源を把握しきれてはいないが、安心して暮らせるようにとの想いはある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による定期的な往診と、看護師の訪問があり、急変時にも指示を受けられる体制を整えている。以前からのかかりつけ医や専門医の受診も家族の協力を得て継続支援している。	系列の診療所医師が協力医として月2回往診する他、週1回訪問看護師の訪問がある。職員は、経過記録を医師や看護師に伝え、指示を得ている。科目外やかかりつけ医の受診は、家族対応であり、結果は職員と家族で共有している。系列の診療所にて、24時間体制で適切な医療が受けられ安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に協力診療所の看護師の訪問があり、日々の様子や状態、気づきなど伝え、相談、指導など連携して利用者の体調管理に努めている。また、訪問以外では、毎日特変があるかどうかのFAXを行ったり、特変時には別で連絡を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に管理者は面会に伺い、医療機関と治療経過など情報共有し、状況の把握に努めているが、現場の職員が業務中に抜けてまでの面会はなかなか出来ない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針に基づき、ホームとしてできることや常時医療行為が必要になった場合の対応などを説明している。必要に応じて、家族、主治医も交えてケアの方針を検討し安心して生活できるような支援に努めている。	重度化した場合の対応に係る指針を文書で表明している。事業所は、重度化における基本理念と医療機関との連携体制を明確にしている。事業所は、看取りは行わないと決めており、終末期は、家族、医師と話し合い、系列の施設、病院等、家族の意向に沿った受け入れ体制の準備がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、急変時や事故発生時に対応出来るスキルの習得、確認に努めている。マニュアルを備えているが、スタッフの技量に差がある為、定期的に訓練を継続していこうと考えているが、実情そこまでの時間が取れていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を行っている。消防署主催の防火・防災安全講習会にも参加し災害対策に努めている。夜勤者が毎日防災確認を行っている。昨年度から地域住民にも訓練に参加してもらい、非常時の協力を依頼している。今年度はまだ出来ない。	年2回の日中の火災訓練と年1回の消防署参加の訓練には地域婦人部の参加があり、避難時に地域住民の利用者見守りの協力がある。消防署より避難時のタンカ利用のアドバイスを職員が手作りしている。訓練時の留意点の記載はあるが実施後の検証記録が確認できない。自然災害の実施や備蓄、持ち出し物の整備はこれからである。	日中想定訓練はあるが、夜間想定は未実施であり、未参加の職員がいる。消防署立会いの下、夜間想定訓練実施と職員全員が参加できる体制作りが望まれる。また、災害訓練の実施及び持ち出し物、備蓄の見直しを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族様へアンケートをとり、手厳しいご意見があられた方もおられた。その結果をもとに再度スタッフ間で話し合い、現状おおむね出来つつある。これからも、個々の性格を理解し、その方に合わせたお声掛けをしている。	職員は、利用者の人格を尊重し本人の望む声掛けに努めている。トイレ誘導はさりげなく行い、失敗時も周囲に気づかれないよう配慮し支援している。本人・家族に個人情報使用に関する同意書を得ており、職員は守秘義務の誓約書を提出している。ただし、フロアに個人名のわかるファイルがある。	利用者の個人情報でもある支援計画や記録類は他人の目に触れないよう、鍵付きのロッカー等にて保管することが望まれる。また、フロアにて記録等記述する際の工夫も期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に提案してしたい事や思いを聞いて、お手伝いさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れの中で、本人の希望や体調に配慮して支援できるよう心掛けているが、全面的にできていると言えない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの衣服を季節や気候に合わせて相応しい服装をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに応じて献立を作成し、準備や片付けなど一緒に行なっている。正月やひな祭りなど行事にちなんだ食事を提供し、季節を感じられるように工夫している。	献立表にはメインとなる食材が記載されており、調理担当の職員がそれを基に調理している。茶わん拭きを手伝う利用者もいる。利用者の咀嚼に合わせてキザミ食で提供することもある。季節の行事食は正月のお節料理やひな祭りなど楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事の摂取量を確認し、状態に応じて適量を提供している。飲水量は季節や状態など必要に応じて測定行っている。随時DrやNSへ相談しながら、助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導し、必要に応じてケアを行い、夜間に義歯の消毒洗浄をしている。歯科へ相談し助言も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員の排泄記録をチェック表に記録し、できる限りトイレで排泄ができるよう個々の排泄周期に合わせた誘導をしている。夜間は利用者様負担を減らす為に、居室にP/Wc設置している方もいる。	職員は、トイレでの排泄の意義を理解しており、排泄チェック表を付けながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。布パンツで生活している人や、リハビリパンツから布パンツに改善した人もいる。夜間はポータブルトイレを設置するなど、利用者に合わせて検討し支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年間を通じて、飲水量チェックし十分な水分量の確保や食事でも毎日、魚・肉・充分な野菜が摂取出来る工夫をしている。午前・午後には体操と運動の時間を設けて取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	積極的に入浴希望者がおられず、入浴拒否の方や同姓介助希望もあり、事前に曜日・人数・スタッフを決めて入浴して頂いている。週2回は入浴して頂いている。	利用者本人のシャンプー・リンスや化粧水、乳液など好みに合わせて支援している。拒否の場合は、様子を見ながら入浴を促しており、利用者が希望する職員が対応するなど工夫している。車椅子の利用者も浴槽に浸かれるよう職員2人で介助し、本人が気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事・おやつ・運動の時間以外は、フロアや居室で自由に過ごして頂いている。室温や寝具調整は季節や個々の体調に合わせて調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をまとめて管理し、いつでも見られるようにしている。薬のセット・服用時は、2重チェックをし、チェック表にサインしている。薬の変更時には、効能・副作用の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物(干す・畳む)・食器拭き、料理の下ごしらえ・縫い物等、その都度声掛けし、お手伝いして頂いている。季節に合った毎月の行事も計画し、楽しんで頂くように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に適している日には周辺の散歩に出掛けている。戸外へは、花見・ドライブ・水族館等へ行き、外でお弁当を食べる等も行っている。町内の行事にもできる限り参加するようにしている。ホームの下に町内の公園を作る計画に関して、町内の会議にも参加させて頂いた。	気候のいい時期は近くを散歩したり、季節ごとに花見のドライブを企画している。時には外食に出掛けることもある。本人の誕生日には家族の協力を得て、食事を兼ねて外出している。また、天気の良い日は、自家菜園の野菜の水やりや収穫を職員と一緒にするなど、戸外に出る機会を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお小遣いとしてお預かりし、希望に応じて買い物など支援して金銭管理行っている。要望に応じて家族の同意の下、小額を保持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、家族や親しい方への電話や手紙のやり取りなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、フロアや廊下、玄関、手すりなどの清掃や換気を行い環境美化に努めている。季節を感じ、楽しんでもらえるように季節毎に飾り付けを行っている。	玄関、リビング、トイレの共有スペースは、今期、環境美化委員によるチェック体制を作り、環境美化に取り組んでいる。清掃は、朝から職員が行い、項目毎に確認し清潔である。リビングでは、調理の匂いが漂い、温かい家庭の食卓を感じることができる。利用者はソファで寛ぎ、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室やホールの出入りが出来るようにしたり、必要に応じた席替えなども行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は馴染みのもの、使い慣れたものなどの持込で頂き、本人、家族とも相談しながら写真や飾りつけなど好みに応じて居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	ベッドや寝具は事業所が提供しており、備品はクローゼットに収納できる。また、各居室にトイレがあり、利用者にとっては快適な環境である。テレビ、時計など持ち込みは自由で、家族が白い壁に季節を感じるおしゃれなアートシールを張っている居室もある。朝から職員が掃除と換気を行い、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかるように表示している。廊下は、不要な物をおかないように危険防止に努めている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木		
所在地	佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『まごころ』のもとに、スタッフ一同、本当の家族のように愛情を込めて、明るく楽しい雰囲気の中、入居者様のお手伝いをさせていただいています。地域の行事には積極的に参加し、また、隣接の小規模多機能ホーム、認知症デイサービスと共にサクラ白木として合同で行事を行い、地域との交流を図っています。庭に畑を作り自家菜園を行って、種まきから収穫までみんなで楽しんでいます。『自分の親を入居させてもいいなあ』と思える施設づくりを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に掲示し、申し送り後に理念の唱和を行い職員は業務の中で理念を意識しながらサービスの提供ができるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等の地域のイベントに声をかけていただき参加を行なっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の型に参加して頂き現状報告し認知症の人の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から現状や日々の活動の報告をし、自ら自治会や行政からの意見や情報提供をいただいています。ここでの意見はサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議に出席していただき、日頃から相談など適切なアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年1回勉強会を行い理解を深め身体拘束にならないケアに勤めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年1回勉強会を行い理解を深め虐待防止に勤めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一般的な制度の知識は、持っている。施設として学ぶ機会はまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	この業務は行なっていない。 利用者や家族より尋ねがあれば管理者へ伝えて、納得に努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望へは常時受身で対応し、運営へ反映に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を否定せず、しっかり傾聴していただき尊重し、良い方法を一緒に考えてくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休日、お正月、お盆休暇手当てなど条件をよくするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を職員に提示、受講できるよう勤務を勤務を考慮してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花ぞ野の上司を袖として他の施設での食事が数回に分けて実施された。 勉強会は1F・2F・小規模で合同で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、信頼関係を築いていく中で要望や不安なことを聞き取りケアに結びつけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学時や入居時の契約の際にはご家族様との話し合いの中でご要望や困っていることや不安なおことをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々にあったサービスを提供できるように御本人様・御家族様と相談・協議しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや茶碗ふきなど入居者様の身体状況に応じたお手伝いをさせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方であれば電話での相談・報告を行い入居者様を支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が希望される場所(店、病院、郵便局など)へお連れしたり本人様の状況を先にお伝えするなどして実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話時、疎通が困難であれば間に入り疎通を図っている。職員も一緒に会話をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後、転居先に面会に行ったり関係者御家族様にその後の様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で、入居者様から要望を言いやすくできるように努めている。御家族様が面会に来られた際は、最近の状態をお伝えし要望がないか声かけするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で入居者様との会話、御家族様からの情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、個人カルテ記録などで様子や体調の変化などで把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ミーティングを行い、入居者様の現状などに意見を出しあい検討している。御家族様や入居者様に要望をお聞きし、作成をおこなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個人カルテに記録し食事の摂取表、排泄チェック表などで職員間で状態の変化などに対応し努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のミーティングで入居者様に対しての気付きや変化など検討し必要な支援を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が演芸訪問に合わせて小規模の施設と合同で計画し実地した。法人全体の祭りでは御家族様や近隣の方々と共に楽しい1日を過ごすことが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	花ぞ野診療所より定期的に(月2回)以外にも特変時や御家族様の希望時はDrが往診している。歯科や外科等、必要時などは受診も行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者様全員の情報をNSにFAXし報告を行なっている。特変者や様観者は個別に1日の経過をFAXで報告し電話で相談したりNSより指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に報告できるようチェック表やカルテを持参して状態を報告している。又、診断を花ぞ野診療所や施設に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様や医療関係者も交えて話し合いが行われている。御本人様の最良の選択ができるよう支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状全ての職員となると出来ていない職員もいる為、今後の課題として初期対応、応急手当の確認や定期的なシュミレーションを行なっていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域の方、小規模と合同で訓練を行った。2階からのエレベーターが使用出来ない状態での避難方法など不十分なところがある為、確認していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の一人一人性格や生活習慣を把握し入居者様を尊重した声かけや対応を行っている。又、声かけをする際は優しい言葉遣いを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日々の様子をカルテや申し送り、日頃の会話の中で本人様の意思を確認、把握し細やかな心の変化に気付き御本人様の意向に沿った対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちやペース、タイミングを尊重し、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴日は洋服がいつもとかぶらないように用意したり、本人様と一緒に洋服を選んでいる。又、整髪や髪どめをし支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日に、肉・魚と交互にメニューを考え食事野菜を中心にできるよう献立も考え、お皿なども本人様が使いやすい物を選んだり、おにぎりなどにし食べやすい形状で提供している。食器拭きなど利用者様にお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事量・水分量をチェック表を通じて把握し、本人様に意向を伺いながら食事形態や水分の種類を変えながら出来る限り摂取して頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は付き添い一緒に口腔ケアを対応している。歯科往診時に治療に対して、指導や助言を頂いたことを踏まえながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	QOLの維持向上は入居者様自身の生への意欲を高めると思慮する。従ってダメージを与える排泄介助においては、個々の入居者様に応じた支援とし、状態にもよるが時間がかかっても極力自力行為での排泄をして頂くように留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫がよい事はわかっているが現状（一括調理）ではあり他の方策としてできるだけ身体を動かし消化が良くなるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助の際は朝一の挨拶時から楽しい声掛けをし前日までの状況や状態を確認しコミュニケーションを維持しつつ、気持ちよく入浴して頂けるように留意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様、個々人の生活スタイルに合わせ十分な睡眠や休息ができるように留意して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各、入居者様が服用されている薬についてはきちんとした理解が必要であるが不十分である。ただ、服薬支援と服薬後の状況観察には十二分に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人のカルテ等を閲覧し過去の状況を把握し、極力楽しく過ごして頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	独自判断で無理なときは職員配置の状況によってはリーダーに相談し極力、実施したいと思慮する。できるだけ希望に沿い対応を行っているが全てが対応できているわけではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設にて預かり金としてお金の管理を行なっている。入居者様の希望に応じ対応している。入居者様が管理されている場合は紛失が無いように気をつけ個人の経過記録を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの電話希望があった際は自由にお話ができるように支援している。聴こえが不十分な方においては職員が補助を行っている。贈り物が届いた場合などはご家族様に電話をし話す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたフロアへの飾り物や花などを飾り空間作りに努めている。室内の温度調整や電球交換などは職員が管理を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、自由に居室やフロアを行き来できるようにしている。入居者様同士で居室へ訪室しお話をされたりする光景も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や装飾品を持ち込んで頂いたり写真を飾ったり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所を紙に貼って示したり、例えば使用後は電気を消しましょう、外へ行くときは一人では出かけないで下さいなどと、分かりやすいように掲示している。		